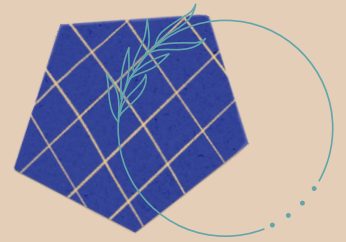


連載 改善の手順 ～QCストーリーとその選択～

第6回 課題達成型QCストーリー②

須加尾 政一 著



前回に引き続き、課題達成型QCストーリーの概略を解説していきます。

手順2 攻め所と目標設定および活動計画の作成

この先の方策を立案していくうえでの前段階として、取り上げた課題についての「ありたい姿」と「現在の姿」を明確にし、そのギャップから「攻め所」を明確にした後に、目標を設定し、活動を成し遂げるための活動計画を作成します。

実施内容

- 1) テーマの目的とする特性についてのありたい姿を明確にして、ありたい姿を実現させるための項目（手段系項目）を明確にします。
- 2) ありたい姿に対応させて現在の姿を把握します。
- 3) 前提条件を把握し、明確にします。
- 4) ありたい姿と現在の姿とのギャップを把握し、特性のありたい姿を実現できそうな攻め所を決め、表4のような攻め所選定シートを作成します。フォーマットだけではわかりにくいので、実例を示しています。
- 5) 目標の3要素で目標を設定し、ガントチャートなどを活用して、活動計画を作成します。

表4 攻め所選定シート

項目		ありたい姿	現在の姿	ギャップ	攻め所の候補	期待効果	採否
管理特性	スクラッチ故障評価時間	7時間以下	12時間	5時間以上			
（管理特性のありたい姿を実現させるための項目） 手段系項目	スクラッチ作業時間	0.5時間	3時間	2.5時間	明室型スクラッチ測定器の開発	大	採用
					ステージ移動の高速化	小	不採用
	試料の準備時間	なし	1.0時間	1.0時間	製品形態での評価	大	採用
	現像作業時間	0.5時間	1.5時間	1.0時間	明室型の自動現像機を使用	大	採用
	スクラッチ測定器の搬入・搬出作業時間	なし	0.5時間	0.5時間	スクラッチ測定器を固定	小	不採用
軽量型スクラッチ測定器の開発					大	採用	

ここで1点だけアドバイスしておきます。ありたい姿・現在の姿・ギャップは、できるかぎり数値で表現することをお勧めします。言語データでしか表現できない場合もありますが、その際にはギャップの表現の仕方が難しくなります。

手順3 方策の立案

手順2で選定した攻め所に焦点を当てて、目標達成可能と思われる方策案、すなわちアイデアをできるだけ多く出します。方策案（アイデア）の中から期待効果で評価して、有効な方策を選ぶまでの手順です。

この方策の立案でのアイデア出しのポイントは、深掘りよりも、広い視野でのアイデアを多く出すことです。

（次ページへつづく）

連載 改善の手順 ～QCストーリーとその選択～

- 1) 攻め所について、目標達成が可能と思われる方策案（アイデア）をたくさん出します。
- 2) 出された方策案を実現性にとられずに期待効果で評価します。できる限り期待効果は数値化します。
- 3) 期待効果の高い順に順位付けを行い、方策として採用するものを選択します。

手順4 成功シナリオの追究

手順3で絞り込んだ効果の高いと思われる方策について、実現させる手段や副作用などを検討して、目標達成可能な成功シナリオを追究します。

実施内容

- 1) 系統図などを用いて、期待効果の高いと思われる方策を実現させるシナリオを具体的に検討します。
なお、シナリオとは具体的な実行案のことです。
- 2) 検討されたそれぞれのシナリオについて期待効果を予測します。
- 3) シナリオを実施することによる障害や悪影響を予測して、事前防止策を検討します。
- 4) 図9に示すように、成功シナリオを選定します。

方策案	シナリオ案		期待効果	実現性	障害・悪影響	総合評価
方策案C	具体策1	具体的実行案1	◎	◎	○	○
	具体策2	具体的実行案2	◎	○	×	×
	⋮	具体的実行案3	○	○	○	○
	⋮	⋮				

図9 成功シナリオの選定

<参考文献>

- ・細谷克也編著、須加尾政一他著（2000）：『すぐわかる問題解決法』、日科技連出版社
- ・山田佳明編著、須加尾政一、高木美作恵著（2022）：『課題達成型QCストーリーの基本と活用』、日科技連出版社



著者紹介

須加尾 政一（すがおまさかず）

日本科学技術連盟 嘱託/Q&SGA研究所代表

日本科学技術連盟 QCサークルセミナー運営委員会委員、QCサークル推進者コース運営小委員会委員、QCサークル指導士資格審査委員会委員、若葉マークのためのQCサークル体験教室運営小委員会委員長、職場の問題解決力レベルアップコース、QCサークルリーダーコース、徹底した現状把握から改善につなげる施策実行型セミナー、品質管理セミナーベーシックコースなどの講師。QCサークル本部認定指導員、QCサークル本部認定講師、『QCサークル』誌編集副委員長、日本福祉施設士会福祉QC指導講師。

東京農工大学工学部修士課程卒業（1983年）、小西六写真工業株式会社（現在のコニカミノルタ株）を経て現職。主な著書：『すぐわかる問題解決法』（2000年）、『はじめて挑戦！QC検定3級短期集中講座』（2018年）、など多数。